



【ほっかいどうちやうきやうほんちやうしゃ】

北海道庁旧本庁舎

レンガ造りの貴重な遺構

通称「赤れんが庁舎」と呼ばれるこの建物は、明治19(1886)年7月、北海道庁設置に伴い建築に着手し、同21(1888)年12月完成した。設計は、道庁土木課の平井晴二郎といわれている。工事は一部を除き直営で、しかも主要建材のレンガ・硬石・木材及び石灰等は、道産のものをを用いている。

外観は簡素であるが、中央ブロック及び左右の翼部を強調し対称形にまとめており、明治20(1887)年代の日本人の設計による規模の大きいレンガ造官庁建築として貴重な遺構である。

八角塔の再建

明治29(1896)年、凍害および震動による構造的欠陥のため、八角塔及び換気塔などの突出部を撤去した。

明治42(1909)年1月、火災によりレンガを残して室内および屋根を焼失した。再建にあたって、残されたレンガ壁体を補修し、内装と屋根を新たにするとともに、両脇玄関を取り除き、階段室を設けるなどの改修を行い、同44(1911)年11月、

工事は完了した。

その後、一部修理や改造が行われたが、昭和43(1968)年、新庁舎の新築に伴い、北海道百年記念事業の1つとして八角塔を再建するなど、創建当時の姿に修復した。

なお、耐震改修を含めた大規模改修を行うため、令和元(2019)年10月1日より一時休館している。

概要

- レンガ造 2階・地下1階
- 屋根階 2階
- 塔屋
- 建築面積 1,654.4 m²

- **建築年代**: 明治 21(1888)年
- **指定年月日**: 昭和 44(1969)年 3月 12日
- **所在地**: 札幌市中央区北 2・3条西 5・6丁目
- **お問い合わせ**: 北海道庁 ☎ 231-4111
- **観覧形態、休館日**
大規模改修のため令和元(2019)年10月1日より休館
- **アクセス**: 地下鉄南北線・東豊線「さっぽろ」
11番出口より約 300m
JRバス・中央バス「札幌駅南」